

# 令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年3月13日  
函館市立赤川中学校

## 1 本年度の重点教育目標

- ・ 自立～主体的に学び、判断して行動できる生徒
- ・ 共生～他を理解しようとし、多様な仲間と協働できる生徒
- ・ 創造～将来に向け、広い視野を持って自分を高めていこうとする生徒

## 2 本年度の取組の重点

- 【施策1】 ①学力向上・・・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善  
②教育課程・・・恒常的な検証と改善の確立
- 【施策2】 ③豊かな心・・・思いやりや他者を尊重する態度など豊かな心の育成を目指した道徳教育の充実
- 【施策3】 ④健やかな体・・・食育の充実や体力向上を図る取組の工夫
- 【施策4】 ⑤安心・安全・・・保護者連絡ツール、HP等を活用した保護者や地域との連携  
⑥業務改善・・・教職員における業務改善の一層の推進
- 【施策5】 ⑦学校運営協議会（CS）・・・地域と連携した取組の推進

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
施策1	①校内で取組を共有し、授業改善を図ることができたか。	a	Chromebookを「文房具」として日常使いし、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。また、小中連携の枠組みを活かし、指導の連続性を検証することで、授業改善のポイントを全校で共有する。	A	A	
	②全国学力調査等の分析結果を共有し、教育課程の改善を図ることができたか。	b	家庭学習強化週間において、単に時間を確保するだけでなく、調査結果で見た「定着が不十分な単元」を重点項目として家庭へ周知する。	A	B	家庭へ周知してもそれを家庭で解決することは不可能。定着のための時間は学校でなくてはと思う。
施策2	③心に響く道徳科の授業実践を通して、いじめ未然防止等を推進することができたか。	a	ICTを活用した意見共有を導入し、他者の視点に立つ体験を増やすことで、道徳的価値を「知識」ではなく「実感」として捉えさせ、いじめを許さない心の土壌を耕していく。	A	A	
施策3	④食育や運動量増加に向け、昼休みの活用等、教育活動の工夫を推進することができたか。	b	全国体力調査の結果を生徒自身が分析し、個人の目標を設定する時間を設ける。	A	A	食育は体の成長だけでなく心の成長にも大きく影響すると思います。
施策4	⑤連絡ツールテトルやHP等を活用し、地域との連携を深めることができたか。	a	HP（ホームページ）と安心メールを積極的に活用することで日々の子どもたちの様子を継続的に伝えることができた。	A	A	子どもたちの生の姿をHPを通して見られるのがよいと思います。
	⑥学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	a	クロムブックの活用（アンケート、テストなど）や、行事・分掌業務の見直しなどを行い、取組の推進を進めた。	A	A	
施策5	⑦CSへの理解を深めるとともに、地域や小中の連携を推進することができたか。	a	CS部会で各団体との交流を深めることができ、新たな連携活動を取り入れることができた。今後も情報交流を行い学校・家庭・地域の三者が目標や課題を共有し、協働して子どもを育てる体制を整える。	A	A	○地域交流が盛んであることは子どもたちの健全育成において何より大切なことだと思います。今後も協働していけるように私達も心がけます。 ○職業体験に毎年2年生が来るが、子どもたちがとて

						もいい顔をしている姿を見ているので、これからも協力したいと思う。こども園としても今後、総合文化部とも交流したいと思う。
--	--	--	--	--	--	---

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。